

# 途上国の科学をレベルアップさせるカギ

発展途上国の科学を進歩させるという課題は、ひとつの国家や組織で取り組むには大きすぎる。科学者はどのような貢献をできるのか。

原文：Keys to capacity

Nature Vol.427(571)/12 February 2004; www.naturejpn.com/digest

**最**近発表された2つの報告書は、ともに同じ結論に達している。発展途上国が新しい知識や技術の活用を望むなら、科学技術の基盤を成長させる必要がある、というものだ。これは高望みではなく絶対に必要なことである。さもないと先進国との間の技術的ギャップはさらに広がり、途上国は致命的な病気の流行の制圧や、持続可能な農業、エネルギー、水の生産などはできなくなるだろう。

報告書「よりよい未来をつくるために」(<http://www.interacademycouncil.net>)をまとめたのは、インターアカデミー・カウンスル(IAC)。国連やその他の国際機関への助言を行うために、90カ国の科学アカデミーが4年前に設立した団体である(本誌2月12日号577ページ参照)。もう一つの報告書は、国連のミレニアムプロジェクトの専門調査会による「科学、技術、改革」([\[cid.harvard.edu/cidtech/interim\\\_report.doc\]\(http://cid.harvard.edu/cidtech/interim\_report.doc\)\)だ。ミレニアムプロジェクトは、2000年に各国指導者が集まって採用した計画で、2005年までに貧困、飢餓、病気の苦しみを大きく軽減しようという、途方もなく非現実的な目標を掲げ、とにかくこれらに取り組むべき重要な課題として打ち出している。](http://www.</a></p>
</div>
<div data-bbox=)

これらの報告書は、各国政府と国際社会の共同行動による問題解決を求めている。これは非常に重要なことだが、変化には時間がかかることや官僚主義を考えると、すぐに進展があるとは期待できない。世界の科学界としては、報告書が掲げた目標をさらに早く実現できるよう、もっとなにかできるはずだ。

ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団、英国のウェルカムトラストなどの団体は、すでに途上国のいくつかの施設、団体に手厚い援助を送っている。ハーワード・ヒューズ医学研究所、米国立衛生研究所のフォガティ国

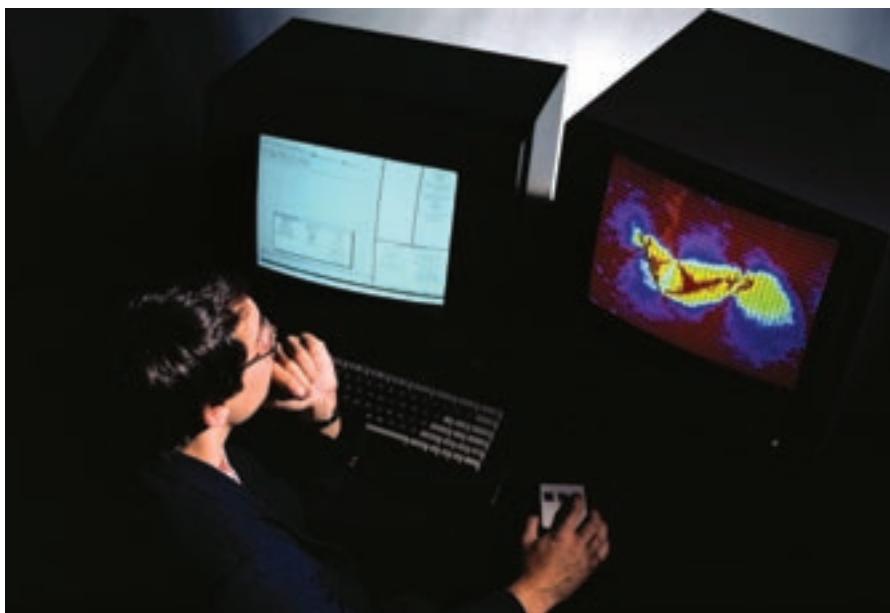
際協力センターを始めとする世界の多くの研究機関も、優秀な研究者や研究所への支援を行っている。

だが、能力開発の支援や有望な人材の優れたデータベースはまだ存在していない。こうしたデータベースがあれば、政府機関や先進諸国の研究機関がよりうまく協力して、優先順位の高い分野や最も優れた科学分野に援助を集中させ、持続性のある中核的研究拠点を育てるチャンスが生まれるだろう。

さらには研究団体、援助資金提供者、民間団体などを含めた、ゆるやかな国際的調整組織という例もある。このような組織が主導することで、ピア・レビュー(論文査読)の基準を設定したり、研究資金が大学や政府当局者に不正に流れることのないよう(アフリカではこのような問題が横行している)監視したりもできるだろう。頭脳流出を食い止めるために、高額な報酬を認めることも早急に必要である。

低費用ですぐに大きな効果が上がるひとつの方法は、途上国の主な研究施設に人工衛星経由の高速インターネットを接続することだろう。アフリカでこうしたアクセス手段をもつ数少ない研究所によれば、単に情報を得やすくなったり、他の科学者との交流が進むだけでなく、最新情報がわかるため、海外の研究助成への申請が非常にうまくいくようになったという。

発展途上国の科学をさらに強力で、透明性の高いものにすれば、投資を呼び込むことになり、西側政府の外務省が助成先を選ぶ水準が高くなるだろう。西側諸国の支出する研究助成は多額だが、科学的水準以外のものさしで受給先を決めることが多いのが現状なのだ。



GETTY IMAGES